

授業科目名	発展体育サッカー (秋)
科目番号	2313313
単位数	0.5 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	秋 AB 月 3
担当教員	小井土 正亮
授業概要	サッカーにおける個人の技能の向上とともに、戦術やポジションなどのチームとしての戦い方をチームメイトと共有し、戦略的にゲームに臨む楽しさを知る。
備考	実務経験教員 対面 男女別要素 (接触) 男女別要素 (特別ルール・ペア/チーム分け) G 科目 短期留学生が受講を希望する際は、初回授業の 3 日前までに授業担当教員に連絡し受講許可を得ること また原則先着順で 2~3 名までとします。
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標 (学修成果)	自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。 1) サッカーの特性を理解する。 2) 仲間と協力して、ゲームを楽しむ。 3) サッカーを通して、心身を健康に保つ方法を学び実践する。
授業計画	第 1 週授業内容の説明、導入 第 2 週基礎技術 1(ボールを止める、蹴る、運ぶ) 第 3 週基礎技術 2(ボールを止める、蹴る、運ぶ) 第 4 週グループ戦術 1(仲間との協力, ボール保持) 第 5 週グループ戦術 2(仲間との協力, シュート) 第 6 週グループ戦術 3(仲間との協力, さまざまな崩し) 第 7 週チーム戦術 (オープン戦・オフサイドの理解) 第 8 週チーム戦術 1(リーグ戦) 第 9 週チーム戦術 2(リーグ戦) 第 10 週チーム戦術 3(リーグ戦)
履修条件	
成績評価方法	技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。 健康観察記録を行うとともに、授業での学びの予習・復習を行う。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等 (連絡先含む)	体育科学系棟 B206 水曜 10:00-11:00 koido.masaaki.gu@u.tsukuba.ac.jp 水曜日 10 時~11 時 koido.masaaki.gu at u.tsukuba.ac.jp

<p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>	<p>人工芝のサッカー場を使用するため、シューズ（凸凹があるものが望ましい）を別に用意すること 単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。 レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。</p>
<p>他の授業科目との関連</p>	
<p>ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）</p>	
<p>キーワード</p>	<p>スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク</p>

授業科目名	発展体育ジョグ&ウォーク (秋)
科目番号	2316313
単位数	1.0 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	秋 AB 月 3; 秋 C 集中
担当教員	鍋倉 賢治
授業概要	「苦しみの長距離走」というイメージを一新し、スポーツとしてのジョギングの楽しさ、爽快さを体得する。特に、秋の筑波山登山、つくばマラソン大会などへの参加を通して、健康・スポーツ・ライフスタイルの意義について考える。さあ、爽快なジョギングをレッツ エンジョイ !!
備考	0.5 単位分を集中授業として行ないます。集中授業として、11 月末の「つくばマラソン (10km またはフル)」、「筑波山登山」、つくば健康マラソン (5km) などから 2 つのイベントを選択し参加します (自費)。それらへの挑戦を通して、新しい自分と出たい、今の状況を打破したい、という学生は大歓迎。注意: つくばマラソンのエントリーは 6 月頃のため、manaba を通して随時連絡します。そのため、Twins による履修登録は 4 月中に行なってください。 対面 男女別要素 (その他) G 科目 詳細後日周知 マラソンエントリーに際し、男女別エントリーになる
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標 (学修成果)	☆自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。 (1) 自分の体力や健康状態を理解し、適切なペースでジョギングすることができる。 (2) つくばマラソン (10km・フルマラソン) に挑戦し、自己の可能性を開拓することができる。 (3) つくばの四季を堪能し、ジョギングを楽しむことができる。 (4) ジョギングを通して心身を健康に保つ方法を学び、生涯にわたって実践できる。
授業計画	0.5 単位分を集中授業として行ないます。集中授業として、11 月末の「つくばマラソン (10km またはフル)」、「筑波山登山」、つくば健康マラソン (5km) などから 2 つのイベントを選択し参加します (自費)。それらへの挑戦を通して、新しい自分と出たい、今の状況を打破したい、という学生は大歓迎。注意: つくばマラソンのエントリーは 6 月頃のため、manaba を通して随時連絡します。そのため、Twins による履修登録は 4 月中に行なってください。 第 1 週自分の身体を知ろう: アラアイメント、ウォーク、ジョグ

	<p>第2週 心拍数(脈拍)測定の意義と方法</p> <p>第3週 体力測定: マラソン・10kmの目標の確認</p> <p>第4週 近郊の公園までジョギング1: ゆっくり走る意義(スロージョグ)</p> <p>第5週 近郊の公園までジョギング2: 自然の中を走ろう(クロスカントリー走)</p> <p>第6週 ペース走の意義と実践1: マラソンの適正ペースを知ろう</p> <p>第7週 ペース走の意義と実践2: 10km レースの適性ペースを知ろう</p> <p>第8週 盲人マラソン体験(伴走ジョギング)</p> <p>第9週 瞑想ジョギング</p> <p>第10週 Fun Run!(サンタラン) つくばマラソン(10km・フル)、筑波山登山、つくば健康マラソン(5km・2月)などから2つのイベントに挑戦する</p>
履修条件	
成績評価方法	<p>技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35%</p> <p>技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外のジョギング、ウォーキングを含む身体活動を推進するために、毎週の授業で「活動表」を記入・報告し、「スポーツの生活化」の実現を図る ・つくばマラソン大会、つくば健康マラソン大会への参加、筑波山登山などのイベントを通し、毎週の授業の成果を確認する ・健康観察記録を行うとともに、授業での学びの予習・復習を行う。
教材・参考文献・配付資料等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鍋倉賢治, マラソンランナーへの道(大修館書店) ISBN-13: 9784469268355 2. 鍋倉賢治, 1時間走ればフルマラソンは完走できる(学研) 3. ランニング学会編, ランニングリテラシー(大修館) <p>マラソンエントリーに際し、男女別エントリーになる</p>
オフィスアワー等(連絡先含む)	<p>月 曜 日 15:00-16:00 nabekura.yoshihar.fm at u.tsukuba.ac.jp</p> <p>http://training.arrow.jp/nabekura/index.php?FrontPage</p>
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	<p>単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う。</p> <p>春学期(0.5単位)相当分を集中授業として行ないます。集中授業として、11月末の「つくばマラソン(10km・フル)」、「筑波山登山」、「つくば健康マラソン(5km)」などから2つのイベントを選択して参加します(自費)。それらへの挑戦を通して、新しい自分と出会いたい、今の状況を打破したい、という学生は大歓迎。注意: つくばマラソンのエントリーは6月頃のため、manabaにて随時連絡します。そのため、Twinsによる履修登録は4月中に行なってください。</p> <p>なお、レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。</p>

他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク, 生涯スポーツ, マラソン, 筑波山登山

授業科目名	発展体育ソフトボール(秋)
科目番号	2321313
単位数	0.5 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	秋 AB 月 3
担当教員	木内 敦詞
授業概要	ソフトボールにおける安心安全と技能上達を、共生協働の実践を通して目指す。さらに、これらの活動を自己成長の機会として捉える視点を養う。授業は、受講者の技能や体力の多様性にに応じて、使用球やルールを柔軟に調整して編成する。評価は技能や体力の優劣によって行わない。
備考	対面 男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G 科目
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	(1) 自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。 (2) 誰もが安心して試行錯誤し互恵的に技能上達する班/チーム/クラスになる。 (3) 自身の心身の状態を踏まえて授業出席の可否を判断できる。 (4) 他者の多様性を踏まえた関わり方を説明できる。 (5) 活動の安全上のリスクを指摘・言語化できる。 (6) 授業活動を教育的視点から振り返り、改善点を述べられる。
授業計画	春学期の自分よりも捕送打走ともにより高度に、守備においては2つ(内野1つ、外野1つ)以上の専門ポジションの技術を磨いていく。 第1週 授業設計の確認、チーム内アイスブレイク、捕送打の基本 第2週 課題探索ゲーム基礎 第3週 課題探索ゲーム応用 第4週 課題探索ゲーム発展 第5週 フリー打撃の組織練習(走塁編) 第6週 フリー打撃の組織練習(守備編) 第7週 内野ゴロ併殺と公式戦の発展 第8週 試合前ノックと秋季リーグ戦の基礎 第9週 試合前ノックと秋季リーグ戦の応用 第10週 試合前ノックと秋季リーグ戦の発展
履修条件	運動に適したシューズ・スポーツウェア着用のこと。熱中症予防の観点から、帽子着用と飲み物持参を強く推奨する。安全管理上、長い爪での受講は認めない。
成績評価方法	技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35%。技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。本授業では技能点を活動点として評価する
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	毎回授業の翌日15時まで、「授業当日のコンディション」と「授業内活動の省察」をmanabaにてレポート提出のこと。また、ベースボール型競技(ソフトボールおよび野球)のルールや練習に関する動画視聴課題にも取り組むこと。
教材・参考文献・配付資料等	初歩的ルール理解の及ばぬ受講者は、以下に示す2冊目の図書の内容を理解の上、初回授業に出席されたい。 1. 川村 卓, 投げる捕る打つ野球解析図鑑、イースト・プレス ISBN-13: 9784781621340 2. 中野良一、木谷友亮, これさえ読めばだいたいわかる: 野球のルール超初級編、ベースボールマガジン社 ISBN-13: 8784583115382
オフィスアワー等(連絡先含む)	特に定めないが、事前にメール連絡のこと。kiuchi.atsushi.fw@u.tsukuba.ac.jp kiuchi.atsushi.fw at u.tsukuba.ac.jp

<p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>	<p>単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。レポート等の作成に際して生成 AI を用いる場合には、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け) 筑波大学」を参照し、適切に活用すること。授業実施場所は主に野球場とするが、北東に隣接の多目的グラウンドも併用する。雨天時の室内練習場での授業に備えて、外履とは別の館内シューズを準備のこと。</p>
<p>他の授業科目との関連</p>	
<p>ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)</p>	<p>TA 配置あり (1 人)</p>
<p>キーワード</p>	<p>自己啓発力, スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク, 安心/安全, 共生/協働/互恵, 上達/成長</p>

授業科目名	発展体育ダンス (秋)
科目番号	2323313
単位数	0.5 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	秋 AB 月 3
担当教員	岡子 美和
授業概要	多様なダンスに挑戦し、その動きを理解して技術の向上を目指す。さらに、個々の自己表現力と感性を磨き、生涯においてダンスを通して豊かな生活を送るための実践力を養う。
備考	対面 男女別要素 (接触) G 科目
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標 (学修成果)	☆自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。 (1) ヒップホップ特有身体の使い方を学びコントロールできるようになる。 (2) 習得したステップや振りを使ってダンスを創作できるようになる。 (3) 仲間と協力しながら、楽しく踊ることができるようになる。 (4) ダンスを通して心身を健康に保つ方法を学び、実践できるようになる。
授業計画	第 1 週身体ほぐし 春学期の復習 ダンスのジャンルの違いによる身体の使い方などをステップやターンを通して学ぶ。 第 2 週ヒップホップダンス ヒップホップダンス特有の身体の使い方 (ダウンのリズム、アップのリズム) を練習して、ステップに応用する。 第 3 週ヒップホップダンス サイドホッピングやランニングマンなどの各種ステップの習得と色々な振りやステップを繋げて踊る練習をする。 第 4 週ヒップホップダンス 第 2 週、第 3 週で習得したステップや振りを組合せて、小人数グループでタイミングを合わせて踊る練習をする。 (実技テス 1: ヒップポップ) 第 5 週既成作品を踊る サビの部分覚えて同じように踊る練習をする。 第 6 週既成作品と習得済みのステップや振りを合わせて構成する方法を体験する。 グループで一つのダンス作品として初めから最後まで通して踊り、完成度を上げる方法などを学ぶ。 第 7 週第 10 週の発表会に向けて、ダンス作品の創作をし、練習する。 (習得したステップや振りを工夫して自由に創作する) 第 8 週第 10 週の発表会に向けて、ダンス作品の創作をし、練習する。 (習得したステップや振りを工夫して自由に創作する)

	<p>第 9 週第 10 週の発表会に向けて、ダンス作品の創作をし、練習する。 (習得したステップや振りを工夫して自由に創作する)</p> <p>第 10 週ダンス発表会 (実技テスト 2: 発表作品)</p>
履修条件	
成績評価方法	<p>技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35%</p> <p>技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	健康観察記録を行うとともに、授業での学びの予習・復習を行う。
教材・参考文献・配付資料等	資料の配布やビデオ視聴を適宜行う。
オフィスアワー等 (連絡先含む)	zushi.miwa.ga@u.tsukuba.ac.jp
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	<ul style="list-style-type: none"> ・単位認定は、原則として当該授業科目の出席時間数が 3 分の 2 以上の者について行う。 ・レポート等の作成に際して生成 AI を用いる場合には、「教育における生成 AI 活用のガイドライン (学生向け)」を参照し、適切に活用すること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク

授業科目名	発展体育テニス(秋)
科目番号	2325313
単位数	0.5 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	秋 AB 月 3
担当教員	三橋 大輔
授業概要	テニスの基礎的な技術、戦術を習得しダブルスおよびシングルのプレーができるようにする。加えてルールやマナー、テニスの歴史を学び生涯スポーツとしてテニスを楽しむ能力を身につける。
備考	テニスシューズがあれば着用すること。なければ運動できる靴(革靴やサンダルは危険なので不可)を着用すること。 実務経験教員 対面 男女別要素(特別ルール・ペア/チーム分け) G 科目
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。 (1) ラケットとボールの関係性を学ぶ (2) テニスで「遊べる」ようになる
授業計画	第1週基礎技術の復習 第2週スピンスーバスの導入、チャンピオンゲーム 第3週スピンスーバスの練習、チャンピオンゲーム 第4週レベル別ダブルス 第5週レベル別の1セットマッチダブルス 第6週1セットマッチダブルス 第7週ダブルスのマナー 第8週技術の総復習、チャンピオンゲーム 第9週チャンピオンゲーム 第10週パートナーを変えてのチャンピオンゲーム
履修条件	
成績評価方法	技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	技術習得にはイメージを得ることも重要であるので、メディアなどでテニスに触れることが望ましい。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	mitsuhashi.daisuk.gn at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	テニスシューズがあれば着用すること。なければ運動できる靴(革靴やサンダルは危険なので不可)を着用すること。 単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。 レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。
他の授業科目との関連	

ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	自己啓発力, スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク

授業科目名	発展体育トリム運動 (秋)
科目番号	2330313
単位数	0.5 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	秋 AB 月 3
担当教員	福田 崇
授業概要	本授業は体育を履修する上で心身のコンディショニングの理由から積極的に身体を動かすことができない学生を対象に開講している。受講希望者は事前に教員との面談を要する。授業内容は、受講生の心身のコンディションを考慮して体力トレーニング、フライングディスク、フィールドゴルフ、球技などから受講生全員が楽しむことができる種目を決定する。
備考	実務経験教員 対面 G 科目
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自立性」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。 (1) 自己のハンディキャップを理解して、できる運動を実践する (2) 他者のハンディキャップを理解して、協働して運動を実践する (3) 身体活動やスポーツを通して自己の生活が豊かになることを理解する (4) 他者とのコミュニケーションを図り、身体活動を楽しむ
授業計画	授業内容は受講生の心身のコンディションを考慮して変更することがある。また、天候や気候などによって変更もありうる。 第 1 週 グランドゴルフに関する基礎知識 (歴史、ルール他) 第 2 週 クラブの持ち方、ボールの打ち方 第 3 週 ボールのコントロール 1(距離) 第 4 週 ボールのコントロール 2(コントロール) 第 5 週 様々な障害物からのアプローチ 第 6 週 ミニゲーム 1 第 7 週 ミニゲーム 2 第 8 週 グラウンドゴルフトーナメント 1(個人リーグ戦) 第 9 週 グラウンドゴルフトーナメント 2(団体リーグ戦) 第 10 週 グラウンドゴルフトーナメント 3(団体トーナメント戦)
履修条件	本授業は体育を履修する上で心身のコンディションから積極的に身体を動かすことができない学生を対象に開講している。受講前に担当教員との面談を要する。
成績評価方法	技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	日常生活の中で歩くことを意識する。週に 2 回 20 分程度のウォーキングを行う。自身の健康について気づいた点をメモをして授業時に発表する。

教材・参考文献・配付資料等	特になし、必要に応じて、授業時に資料を配布する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	特に設定をしていません。メールで連絡をして下さい。 fukuda.takashi.gm at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	カナダ障害者バレーボールナショナルチーム・アスレティックセラピストや国立スポーツ科学センター・現トレーニング指導員の経験を生かした誰もが身体活動を楽しめる体育授業を目指す。 単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。 レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	TA 配置あり(1人)
キーワード	スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク

授業科目名	発展体育トラック&フィールド (秋)
科目番号	2352313
単位数	0.5 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	秋 AB 月 3
担当教員	谷川 聡
授業概要	円盤投げやハンマー投げなど、高校までの授業では体験しない種目を積極的に行う。実技を中心に行うが、ルールや歴史、競技者の心理等についての講義も随時行う。
備考	実務経験教員 対面 男女別要素 (接触) 男女別要素 (特別ルール・ペア/チーム分け) G 科目
授業形態	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「5. 心身の健康と人間性・倫理性」に関連する 「6. 協働性・主体性・自律性」に関連する
授業の到達目標 (学修成果)	自己を成長させ続ける力を習得し、より豊かなスポーツライフを形成する。 (1) 自己の身体を理解 (2) 自己の身体操作の特性を理解 (3) 自己の身体の変化の客観的/主観的指標づくり
授業計画	ヒトの基本的な走る・跳ぶ・投げるを科学的視点から見直して、実践する。日常生活における身体活動を見直し、生涯スポーツのを考え直す。 また、一流競技選手のパフォーマンスの観戦方法をまなび、見る・する・支えるの三つの立場から捉えてスポーツの価値について考える。 第 1 週陸上競技観戦記 第 2 週競技者から見た陸上競技 第 3 週投擲運動 槍投げ 第 4 週投擲運動 円盤投げ 第 5 週リレー: バトンパス 第 6 週リレー: バトンの理論と実践 第 7 週リレー: タイム測定 第 8 週ハードル 1 第 9 週ハードル 2 第 10 週跳躍運動 幅跳び
履修条件	
成績評価方法	技能 35%、知識・理解 30%、態度・意欲 35% 技能および知識・理解の評価基準を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業ごとに 1 週間の運動記録を提出させる。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等 (連絡先含む)	tanigawa.satoru.gb@u.tsukuba.ac.jp

<p>その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）</p>	<p>運動が得意か得意でないかは問いません。陸上競技の運動・観戦のうんちくを語りたいた人は是非どうぞ。</p> <p>ジャージや運動靴を用いること（ジーパンや革靴は不可）</p> <p>単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。</p> <p>レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。</p>
<p>他の授業科目との関連</p>	
<p>ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）</p>	
<p>キーワード</p>	<p>自己啓発力, スポーツライフ, スポーツ文化, 倫理観, スポーツマンシップ, チームワーク, 自己を成長させ続ける力を習得し, より豊かなスポーツライフを形成する。</p>